

生物

任期付研究員

大学教員

研究機関研究員

大学教員

実験が楽しくて気がついたら研究者に

原田慶恵 (京都大学物質-細胞統合システム拠点 教授)

研究の内容と醍醐味

1個1個のタンパク質分子が実際に働く様子を顕微鏡で観察し、その機能を調べています。タンパク質分子がDNAをぐるぐるねじりながら情報を読み取る様子を見ると、思わず「がんばれ、がんばれ!」と応援してしまいます。タンパク質分子が、がんばって働いているところを見るのは感動です。

研究と生活のバランス

大学4年生から博士課程修了までは、土日ほとんど休まず研究室に行って朝から晩まで実験していました。就職してから40歳位までは学生時代と同じかそれ以上に実験をしましたが、気分転換のため、時々まとまった休みを取っていました。病気をしないようにきちんと休むことや遊ぶこともとても重要だと思います。テレビがないので、家ではラジオを聞いています。京都に引っ越してきたので、お寺やお祭りを楽しもうと思っています。数年前からペットとして小動物を飼い始め、今はフクロモモンガの「ももちゃん」に癒されています。

進路決定のきっかけ

子供の時から理科が好きでした。高校で理科の中でも「生物」が好きになり、大学は理学部生物学科に進学しました。しかし、研究者になることは全く考えていませんでした。大学4年生の時、実験が楽しく、もう少し研究を続けたいと思い、修士課程に進学しました。修士修了後就職するつもりでしたが、就職活動に失敗し途方に暮れていたところ、縁あって阪大基礎工学部の博士課程に進学することになりました。博士課程の途中で研究に行き詰まり、研究室を変わるようになりましたが、その後、思いのほか良い研究成果を挙げることができました。博士号取得後、日本学術振興会の特別研究員に採択されたとき、研究者として研究を続けていくことを決めました。

進路選択に対するメッセージ

ポジティブ思考と一生懸命がんばること、時には新しい世界に思い切って飛び込む勇氣や決断力が必要です。人生は一度きりなので、ぜひ楽しんでください。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

海外で滞在した研究室で知り合った日本人女性の研究員とは今でも交流をしています。彼女は現在ハイデルベルク大学で研究員をしています。昨年、イタリアで開催された学会の帰りに彼女の家を訪問し、ついでにハイデルベルク大学で講演をさせていただきました。海外に友人がいることは研究者にとって非常に重要です。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

私が滞在したヨーロッパ分子生物学研究所 (EMBL) のハンブルク支所は小さな研究所でしたが、世界中の様々な国から来た研究者がいました。ほとんどが男性の研究者でしたが、一人トルコ出身の女性のグループリーダーがいました。海外の研究所で自分の研究室を運営している彼女は、当時、教務職員という助手よりも下の職だった私には非常にまぶしい存在でした。まさか自分がその8年後に自分の研究室を持つことになるとは思っていませんでした。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

博士号取得後、留学の機会がないまま、大学に就職し32歳になってしまいました。1年後に5年の任期付きの国内の研究員の職に転職することも決まったとき、研究室のボス(教授)が、「このままでは一生、海外留学の機会がなくなってしまう。ぜひ海外生活の経験をした方が良い」と、半年間だけですが、長期出張という形で海外で研究させてもらうことになりました。

滞在先の思い出・生活者としての体験

私が滞在したのはドイツ、ヨーロッパ分子生物学研究所 (EMBL) ハンブルク支所の前田雄一郎先生 (現在は名古屋大学理学部教授) の研究室でした。研究所内の公用語は英語なので良いのですが、青空市場でのお買い物など、日常生活ではドイツ語が必須でした。大学時代にドイツ語を第二外国語として勉強したはずなのですが、全く覚えていませんでした。わずか半年の滞在だったので、ドイツ語の勉強はしませんでした。何とかお買い物はできるようになりました。生活で覚えた言葉は身に付くことを実感しました。



<原田慶恵 (はらだよしえ) プロフィール>

茨城大学理学部生物学科 → 茨城大学大学院 理学研究科 生物学専攻修士課程 → 大阪大学大学院 基礎工学研究科 物理系専攻 博士後期課程(生物工学) → 工学博士号取得 → 日本学術振興会 特別研究員 → 大阪大学 基礎工学部 教務職員 → 新技術事業団 柳田生体運動子プロジェクト 研究員 → 慶應義塾大学 理工学部 専任講師 → 財団法人 東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所 副参事研究員 → 現職